

(別紙5)

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 28-1-015
補助事業名 平成28年度自転車競技の普及促進及び競技力の向上に資する 補助事業
補助事業者名 一般社団法人全日本実業団自転車競技連盟

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

全国組織の連盟として、幅広い競技者に向けて、日本各地で大会を開催し、日頃の修練の成果を示す場を提供することで競技力の向上を目指し、一般社会の自転車競技に対する正しい知識と理解を深め、サイクルスポーツの進歩を促し普及を図る。

(2) 実施内容

① 第50回 JBCF 経産大臣旗ロードチャンピオンシップ 開催

(http://www.jbcf.or.jp/races/20161009_id=9462)

開催日 平成28年10月9日

開催地 石川県輪島市 門前町周辺・周回コース(1周/12.6kmの周回コース)



Jプロツアーはオスカル・プジョール (Team UKYO) が独走優勝



栄えある経済産業大臣旗は2年連続で Team UKYO の元へ

(別紙5)

② 第47回 JBCF 全日本トラックチャンピオンシップ 開催

(http://www.jbcf.or.jp/races/20161002_id=9458)

開催日 平成28年10月2日

開催地 静岡県伊豆市大野 伊豆ベロドローム



東京オリンピックが行われる
伊豆ベロドロームが会場となった



男子チームスプリント1位 実業団新記録
岩井商会レーシング 47秒960

③ 第50回 JBCF 東日本ロードクラシック 開催

(http://www.jbcf.or.jp/races/20161016_id=9471)

開催日 平成28年10月16日

開催地 新潟県南魚沼市舞台 三国川ダム周回コース



Jフェミニンツアーは唐見実世子
(弱虫ペダルサイクリングチーム)
が独走して優勝



多くのファンの声援を受け、厳しい坂を上るJプロツアーのメイン集団

(別紙5)

④ 第50回 JBCF 西日本ロードクラシック 開催

(http://www.jbcf.or.jp/races/20160702_id=7816)

(http://www.jbcf.or.jp/races/20160703_id=7804)

開催日 平成28年7月2-3日

開催地 広島県中央森林公園サイクリングコース (12.3km周回コース)



Jプロツアーはホセ・ビセンテ・トリビオ (マトリックスパワータグ) が制する



ホームチームの VICTOIRE 広島とサポーターが会場をオレンジに染め上げる

⑤ 第47回 JBCF 東日本トラック 開催

(http://www.jbcf.or.jp/races/20160710_id=7825)

開催日 平成28年7月10日

開催地 長野県 松本市美鈴湖競技場



標高 1000m の高地にある
美鈴湖自転車競技場



男子スクラッチ 福田真平 (愛三工業レーシングチーム) が優勝

(別紙5)

⑥ 第50回 JBCF 西日本トラック 開催

(http://www.jbcf.or.jp/races/20160522_id=6798)

開催日 平成28年5月22日

開催地 大阪府 岸和田競輪場



男子1kmタイムトライアル優勝の
藤井昭吾 (岩井商会レーシング)
1分08秒599



男子スクラッチは1ラップかつ先
頭フィニッシュの向川尚樹 (マト
リックスパワータグ) が優勝

⑦ 第15回 JBCF 石川サイクルロードレース 開催

(http://www.jbcf.or.jp/races/20160717_id=8123)

開催日 平成28年7月17日

開催地 福島県石川町・浅川町周回コース 13.6km/1周



スタートに先立ち、キッズによる
ランニングバイクレースが行われ
た



Jプロツアー優勝はベンジャミ・
プラデス (Team UKYO)

(別紙5)

2 予想される事業実施効果

(ロードレース)

大会を継続開催し、自転車競技の普及、地域貢献に努め、ウェブコンテンツの充実やそのアクセシビリティにも配慮し、積極的な露出を行うことで、直接、会場に来る観客、さらには一般のスポーツファンへも観戦する楽しさを提供して、メジャースポーツに近づけていく。そして、実戦強化を基本に競技力のレベルアップや、連盟独自の年間ポイント制度により、選手達が目標とするステップを明確化し、その見える化により成果へと繋がっていき、連盟加盟登録選手のみならず国内の競技者数を底上げする一助を担っていく。

(トラックレース)

実戦強化を基本に競技力のレベルアップや、年間ポイント制度により、選手達が目標とするステップを明確化し成果に繋げていく。そして、ロードレース選手にとっても、トラックでの実戦が世界に通用するスピード力を養成するために、ポイント加点制度を設け、積極的な参加を募るなど、トラック種目の活性化を図りつつ、さらなる選手層の拡大を、そして、スポーツMCの起用で、観る楽しみも提供することでファン層の拡大を実現させていく。

3 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

- ① [第50回 JBCF 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップのプログラム \(PDF\)](#)
- ② [第48回 JBCF 全日本トラックチャンピオンシップのプログラム \(PDF\)](#)
- ⑦ [第15回 JBCF 石川サイクルロードレースのプログラム \(PDF\)](#)



①大会プログラム



②大会プログラム



⑦大会プログラム

(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟（ゼンニホンジツギョウダ
ンジテンシャキョウギレンメイ）

住 所： 〒141-0021
東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル5階

代 表 者： 理事長 斧 隆夫（オノ タカオ）

担 当 部 署： 事務局 本部（ジムキョク ホンブ）

担 当 者 名： 平木 里美（ヒラキ サトミ）

電 話 番 号： 03-5475-8781

F A X： 03-5475-8740

E - m a i l： info@jbcf.or.jp

U R L： <http://www.jbcf.or.jp/>

平成 28 年度 JKA 補助事業 (28-1-015)
自己評価委員会 議事録

平成 28 年 12 月 12 日、平成 28 年度第 9 回理事会を開催し、同時に理事による自己評価委員会として、平成 28 年度の JKA 補助事業に関する評価を行った。

一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟
平成 28 年度 第 9 回理事会

日時：平成 28 年 12 月 12 日 (月) 9:30~13:00

場所：東京・自転車総合ビル 7 階 会議室

出席：斧 隆夫 (理事長)、清水 弘裕 (副理事長)、小黒 一弘 (理事)、吉川 章 (理事)、
奥田 悦司 (理事)、鈴木 光弘 (理事)、廣瀬 佳正 (理事)、佐々木 壽 (監事)

職員：小黒 迅 (事務局)、平木 里美 (事務局)

議 題：

平成 28 年度自転車競技の普及促進補助事業について、事前計画と対比して評価を行う。

- 【補助事業】
- ①第 50 回経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ
 - ②第 47 回全日本トラックチャンピオンシップ
 - ③第 50 回東日本ロードクラシック
 - ④第 50 回西日本ロードクラシック
 - ⑤第 47 回東日本トラック
 - ⑥第 50 回西日本トラック
 - ⑦第 15 回石川サイクルロードレース

事務局職員の平木より、各大会の事前計画と個別項目評価案が示され、それに基づき、総合評価を行った。

①第 50 回経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ／石川県輪島市 門前町周回コース

(a)事業全体についての意見・所感

・石川県輪島市で今まで 8 回開催していた「輪島ロードレース」を今年度は経済産業大臣旗に位置づけ、開催したことにより参加人数・観客動員数が増え、例年以上の盛り上がりを見せていた。

・本場所での開催は 9 回目であり、運営上の経験値もあがり、地元石川車連、また近県の富山車連・福井車連と密に連携をとり競技役員の確保・円滑な競技運営を行うことで予算立て含めた大会運営全般がスムーズに行われていた。その効果も有ってか開会式時には選手・監督・競技役員が一堂に集まり盛り上がりある式が行えた。

・骨折を含む落車事故も有ったのだが地元の対応が良く迅速な救急搬送が行われた。この部分は自転車競技を行う上で非常に大切なことでもあり、地元密着の大会運営が功を奏したといえよう。

(b)優れている点、課題、改善点

- ・情報発信において、スピーディーな体制を取ることができた。

- ・事業の成果・波及の指針となる競技者の登録数が着実に増加し、自転車競技普及の一助を担う事ができた。
- ・2020年の東京五輪で活躍できるよう競技力の向上を目指し、全国の幅広い競技者へ日頃の修練の成果を示す場として全国各地で大会を開催していきたい

(c)その他アピールしたい点

- ・開催地および石川県自転車連盟と協力して、安全、公平に運営を行うことができた。
- ・さらに関係者、観客等の宿泊や食事等による地域貢献のほか、地元住民へも競技への関心を高める事に繋げていきたい。
- ・今後も大会を継続開催し、自転車競技の普及、地域貢献に努め、ウェブコンテンツの充実やそのアクセシビリティにも配慮し、メジャースポーツに近づけるべくチャレンジしていきたい。

②第47回全日本トラックチャンピオンシップ／静岡県伊豆市 伊豆ベロドローム

(a)事業全体についての意見・所感

- ・連盟創設後まもなくより開催し、半世紀近くの歴史を刻んできたトラックレースのチャンピオンシップ大会であり、国内での強化合宿より最も効果があるレース実戦による競技力強化の場、機会を提供するものとして、今後も継続して開催していきたい。
- ・東京五輪の会場に決定した伊豆ベロドロームで開催することは、世界標準である板張り250mトラックでの習熟度を高め、世界で活躍できる選手の育成、増加につながり、競技役員レベルアップをも図り、国際レベルの運営を目指すことにもなり、大変有意義であった。

(b)優れている点、課題、改善点

- ・情報発信において、スピーディーな体制を取ることができた。
- ・事業の成果・波及の指針となる競技者の登録数が着実に増加し、自転車競技普及の一助を担う事ができた。
- ・2020年の東京五輪で活躍できるよう競技力の向上を目指し、全国の幅広い競技者へ日頃の修練の成果を示す場として全国各地で大会を開催していきたい。

(c)その他アピールしたい点

- ・日本サイクルスポーツセンターおよび静岡県自転車連盟と協力して、安全、公平に運営を行うことができた。
- ・さらに関係者、観客等の宿泊や食事等による地域貢献のほか、地元住民へも競技への関心を高める事に繋げていきたい。
- ・今後も、大会を継続開催し、自転車競技の普及、地域貢献に努め、ウェブコンテンツの充実やそのアクセシビリティにも配慮し、メジャースポーツに近づけるべくチャレンジしていきたい。

③第50回東日本ロードクラシック／新潟県南魚沼市舞台 三国川ダム周回コース

(a)事業全体についての意見・所感

- ・全日本実業団自転車競技連盟の発足より共に歩みロードレースの歴史そのものと言っても過言ではない50回の開催を迎える東日本地区選抜大会であり、今後も継続して開催していきたい。

- ・大会当日には地元名産品のアピールテントなども地元青年会議所などの協力のもと、行われ、観光誘致の一助にもなったのではないかと。
- ・参加するチーム、選手達には、この国体やインターハイにも選ばれた実績がある、三国川ダムとしゃくなげ湖畔屈曲が続き、周回ごとに150m余を一気に上り下りする一周12kmの難易度の高い特設コースでの実戦は、競技力強化の場、機会を提供するものとして有意義な大会といえる。

(b)優れている点、課題、改善点

- ・情報発信において、スピーディーな体制を取ることができた。
- ・事業の成果・波及の指針となる競技者の登録数が着実に増加し、自転車競技普及の一助を担う事ができた。
- ・2020年の東京五輪で活躍できるよう競技力の向上を目指し、全国の幅広い競技者へ日頃の修練の成果を示す場として全国各地で大会を開催していきたい。

(c)その他アピールしたい点

- ・開催地および新潟県自転車連盟と協力して、安全、公平に運営を行うことができた。
- ・さらに関係者、観客等の宿泊や食事等による地域貢献のほか、地元住民へも競技への関心を高める事に繋げていきたい。
- ・今後も、大会を継続開催し、自転車競技の普及、地域貢献に努め、ウェブコンテンツの充実やそのアクセシビリティにも配慮し、メジャースポーツに近づけるべくチャレンジしていきたい。

④第50回西日本ロードクラシック／広島県中央森林公園

(a)事業全体についての意見・所感

- ・本大会は、西日本地区の選抜大会であり、連盟創設と共に半世紀の歴史がある。そして、国内での強化合宿より最も効果があるレース実戦による競技力向上の場を創出する。
- ・開催地の広島には、地域密着型チーム（ヴィクトワール広島）がホームレースとして運営に協力し、ファンサービスに努めるなど、西日本地区の観客動員開拓とサポーターの増加を図っていることは地域活性化の一助になっていると言えよう。
- ・参加者数は目標値となる5%増は達成できなかったが昨年より増加していた。
- ・今後もウェブコンテンツの充実させ、更なる情報発信に注力し、メジャースポーツとしての醸成を目指していきたい。

(b)優れている点、課題、改善点

- ・情報発信において、スピーディーな体制を取ることができた。
- ・事業の成果・波及の指針となる競技者の登録数が着実に増加し、自転車競技普及の一助を担う事ができた。
- ・2020年の東京五輪で活躍できるよう競技力の向上を目指し、全国の幅広い競技者へ日頃の修練の成果を示す場として全国各地で大会を開催していきたい。

(c)その他アピールしたい点

- ・広島県自転車競技連盟と協力して、安全、公平に運営を行い、ホームチームであるヴィクトワール広島とも連携し、飲食ブースを出すなど会場を盛り上げることができた。
- ・さらに関係者、観客等の宿泊や食事等による地域貢献のほか、地元住民へも競技への関

心を高める事に繋げていきたい。

・今後も、大会を継続開催し、自転車競技の普及、地域貢献に努め、ウェブコンテンツの充実やそのアクセシビリティにも配慮し、メジャースポーツに近づけるべくチャレンジしていきたい。

⑤第47回東日本トラック／長野県 松本市美鈴湖競技場

(a)事業全体についての意見・所感

・初開催の会場であったが、地元長野県自転車競技連盟の全面的なご協力の元、公平で安全な競技運営を行う事ができた。

・27年6月に完成した美鈴湖自転車競技場であるが、333mの周長で非常にスムーズな路面と、標高約1千メートルの高地にあり空気抵抗も少ない。チームスプリントで実業団新記録が、さらにリオ・パラリンピック日本代表選手がタイムトライアルで自己ベストを出したように今後も好記録が期待できる。

・レース実戦による競技力向上の機会を創出していくためにも今後も継続して開催していきたい。

(b)優れている点、課題、改善点

・情報発信において、スピーディーな体制を取ることができた。

・事業の成果・波及の指針となる競技者の登録数が着実に増加し、自転車競技普及の一助を担う事ができた。

・2020年の東京五輪で活躍できるよう競技力の向上を目指し、全国の幅広い競技者へ日頃の修練の成果を示す場として全国各地で大会を開催していきたい。

(c)その他アピールしたい点

・長野県自転車競技連盟と協力して、安全、公平に運営を行うことができた。

・さらに関係者、観客等の宿泊や食事等による地域貢献のほか、地元住民へも競技への関心を高める事に繋げていきたい。

・今後も、大会を継続開催し、自転車競技の普及、地域貢献に努め、ウェブコンテンツの充実やそのアクセシビリティにも配慮し、メジャースポーツに近づけるべくチャレンジしていきたい。

⑥第50回西日本トラック／大阪府岸和田市 岸和田競輪場

(a)事業全体についての意見・所感

・西日本地区の選抜大会として、連盟創設後まもなくより半世紀近く歴史を刻んでおり、レース実戦による競技力向上の機会を創出すべく、継続的に開催していき、今後も、レース実戦による競技力向上の機会を創出していきたい。

・会場の岸和田競輪場は1周400mのクセのない走りやすいバンクで直線も比較的長い。ため、脚質による有利不利は少なく、ロードレース選手にとっても参加しやすい会場であり、スピード強化練習のために、ポイント加点制度を設け、積極的な参加を募るなど、さらなる選手層を拡大していきたい。

(b)優れている点、課題、改善点

・情報発信において、スピーディーな体制を取ることができた。

・事業の成果・波及の指針となる競技者の登録数が着実に増加し、自転車競技普及の一助

を担う事ができた。

- ・2020年の東京五輪で活躍できるよう競技力の向上を目指し、全国の幅広い競技者へ日頃の修練の成果を示す場として全国各地で大会を開催していきたい。
- ・参加者全数が目標を達成できなかったが、1日開催の大会では、すでに人数的に限界でもあり、今後、2日あるいは1日半での開催を考慮し、改善していきたい。

(c)その他アピールしたい点

- ・大阪府自転車競技連盟、西日本学連と協力して、安全、公平に運営を行うことができた。
- ・関係者、観客等の宿泊や食事等による地域貢献のほか、地元住民へも競技への関心を高める事に繋げていきたい。
- ・今後も、大会を継続開催し、自転車競技の普及、地域貢献に努め、ウェブコンテンツの充実やそのアクセシビリティにも配慮し、メジャースポーツに近づけるべくチャレンジしていきたい。

⑦第15回石川サイクルロードレース／福島県石川町・浅川町周回

(a)事業全体についての意見・所感

- ・高体連との連携により、地元高校の有力選手が多く参戦し、実業団選手とともに、鎬を削るという交流の場として、そしてジュニアカテゴリーの実戦強化として意義の深い大会である。
- ・地元の方々が沿道のそこそこで応援する姿は、選手にとって、暖かなもてなしとなり、モチベーションアップに繋がっている。
- ・地元行政に尽力いただいた一般公道での、丘陵部と平坦部が適度にミックスされた難易度の高いコースは、内外から高い評価を得ており、競技力向上のためにも継続して開催していきたい。

(b)優れている点、課題、改善点

- ・情報発信において、スピーディーな体制を取ることができた。
- ・事業の成果・波及の指針となる競技者の登録数が着実に増加し、自転車競技普及の一助を担う事ができた。
- ・2020年の東京五輪で活躍できるよう競技力の向上を目指し、全国の幅広い競技者へ日頃の修練の成果を示す場として全国各地で大会を開催していきたい。

(c)その他アピールしたい点

- ・開催地および福島県自転車競技連盟と協力して、安全、公平に運営を行うことができた。
- ・関係者、観客等の宿泊や食事等による地域貢献のほか、地元住民へも競技への関心を高める事に繋げていきたい。
- ・今後も、大会を継続開催し、自転車競技の普及、地域貢献に努め、ウェブコンテンツの充実やそのアクセシビリティにも配慮し、メジャースポーツに近づけるべくチャレンジしていきたい。
- ・参加者数が昨年より減少してしまっただが、内訳をみるとジュニアユース選手は昨年27名であったが今年は43名であり、実に59%増となった。今大会の特色でもある将来を担うジュニアユースカテゴリーの実戦強化に繋がるものとして、このことは大きな意味があったといえよう。

以上

平成28年12月12日

一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟

平成28年度 第9回理事会

平成28年度 JKA 補助事業 自己評価委員会

議長代表理事 斧 隆夫 

副理事長 清水 弘裕 

理 事 小黑 一弘 

理 事 吉川 章 

理 事 奥田 悦司 

理 事 鈴木 光広 

理 事 廣瀬 佳正 

監 事 佐々木 壽 